

令和元年度 第3回 社会教育委員会会議録

令和元年度第3回社会教育委員会は市民会館2階会議室で開催されたコミュニティセンター三学塾塾長会議へ参加し交流会を開催した。

また、塾長の業務について理解を深めた。

開催日時 令和元年9月5日（木）午前10時00分～

開催場所 市民会館 2階会議室

- 内容
1. 研究協議
 - ・学習機会の提供・住民の議論の場づくりについて
 - ・グループ討議
 2. 令和元年度 第1回社会教育委員会会議録承認

出席委員	委員長	林 達夫
	副委員長	磯部 彰
	委員	山内 正一
	委員	山田 恵市
	委員	鈴木 正司
	委員	森川 伸江
	委員	遠藤 茂樹
	委員	松村 通夫（敬称略）

出席塾長	市民会館	山田 真司
	東野コミュニティセンター	杉本 純一
	三郷コミュニティセンター	小林 敏博
	武並コミュニティセンター	鈴木 道代
	笠置コミュニティセンター	岩崎 修
	中野方コミュニティセンター	渡邊 敬之
	飯地コミュニティセンター	安田 勲
	岩村コミュニティセンター	鷹見 利夫
	山岡コミュニティセンター	後藤 光男
	明智コミュニティセンター	塩田 肇
	串原コミュニティセンター	柴田 美穂子
	上矢作コミュニティセンター	小木曾 基雄

出席した社会教育委員会事務局等

生涯学習課係長
社会教育指導員

荻山 勝
遠藤 滋

1. 研究協議

グループ討議

(地域課題への取り組み、学びの成果を地域に活かす、住民の主体的な関わり)

- ・小さな拠点作りを始めている。30代、40代、50代の人を中心に組織をどうまとめていくか調整が難しい。能を学ぶ勉強会に中学生も企画の段階で参加。市長と語るまちづくり懇談会にも中・高生が参加することができ、好評だった。
- ・武並音頭の復活：小学校で踊る機会を増やす。夏まつりや運動会
- ・中山道保存会は、小学校6年が語り部の案内で歩いている。
- ・公民館は地域の様々な情報が集まる場所。中心地域では地域のつながりが希薄
- ・塾長のポジションは、センター長が決裁権を持つため、事業がスピード感を持って以前のように進められない。
- ・まちづくりの予算がなくなり、活動が縮小している。
- ・息子世代が市外へ出て行った世帯が多い。地域のつながりも希薄になっていて、地域の情報も入ってこない。
- ・コミュニティと行政の連携に苦慮している。
- ・地域に特性として、地域で生活を完結できる田舎
- ・中心地区は地域とのつながりが薄い。地域課題に対する意識をいかに持たせるかが最大の課題。今後課題について話し合える場を設けていく。
- ・市民講座をとりまとめ、前期だけで1900名が取り組んでいる。個人の趣味の域を脱していない。中学生ボランティアが参加（幼児、小学生の指導）
- ・地域の一体化が困難。それぞれが独立自治区を形成。組織の見直しから始めている。
- ・地域（三区）の一本化が目標。三学委員会で毎月定例会を開催し、参画を図っている。地域を知る講座として、地域で必要な者を探し、企画することも仕事。
- ・地域を学ぶには何をすれば良いか考えるのが塾長のコーディネーターとしての役割。地域と学校との架け橋となって動いていくことが必要である。
- ・塾長の役割としては、次の2点、子育てと地域で必要な学びの場を形成し、地域組織と連携していく。もう一点は、人材育成：次の世代の発掘（出来る人が少ない）
- ・コミュニテイスクール、芸能発表会の他、新たな取り組みが始まっている。
- ・マンネリ化の傾向。青少年、三学で講演会に小学生・保護者（100名の参加）
- ・住民アンケートの提出が少ない。現状維持の心理。課題は耕作放棄地の増加、稲作からニンニク栽培。
- ・主体的な学びとして、地域の昔の写真集（260枚以上の写真が集まる）
- ・地域かるたの取り組みを通して、広がりができてきた。
- ・地域からの要望の受入は物理的に困難、カリキュラム等

- ・ 出前講座の利用を考えている。防災（地域）実践活動・体験
- ・ 社会教育の範囲が広すぎる。何から入っていくか、何をやっていけるのか。子ども、家族、塾長が何をしてくれるのか
- ・ 乳幼児学級、終わると下火になる。人をつなぐ 次のステップの企画を地域住民はコミュニティセンターに昔の役場感覚で来られる方がある。
- ・ 地域課題：人口減少、文化の継承（文化財、芸能）、イベントが継続できない。信頼が必要（塾長）。
- ・ 住民の主体的な関わり：公園がない。世代交替ができていかない。住民が集まるコミュニティセンター、人口減少、地域の歴史、知識を継承、役場感覚を払拭。